

IV-7

北海道における空港公園の一考察―翼とふれあいの広場

北海道土木部	正 員	谷 山 剛
北海道土木部	正 員	武 智 弘 明
北海道開発C	正 員	浦 田 康 滋

1 はじめに

社会資本整備にあたって、ゆとりとうるおいのある施設づくりがうたわれて久しい。例えば、自然の生態を意識した河川整備や街路での『まちづくり』と一体となった道路整備などが取り組まれている。

空港では航空機騒音の緩衝帯として周辺に緑地を持つことがあり、災害時への対応などのためにも一定の空間を持つことの意義が大きいことなどより、この空間を活用する「ゆとりとうるおい」のある施設整備、即ち公園的施設整備の検討が求められている。

しかし、無機的なイメージを持つ空港は交通結節点であり、道路や河川などと異なり人間活動との接点は限られている。また、空港やその周辺の公園的施設整備において、求められる機能は特異なものであると思われる。

そこで、今回空港従業員や空港利用者を対象とし、空港という存在に求める機能に係るアンケート調査を実施し、若干の知見を得たので報告する。

2 空港周辺整備での取り組み

(1) 従来の整備

航空機騒音の緩和や、地域振興のために空港周辺で整備した例は次のとおりであるが、実態は騒音対策を種としたものが多い。

航空機騒音緩和対策：函館空港、仙台空港、大阪空港、名古屋空港、松山空港、高知空港、福岡空港など
地域振興対策：高松空港、岡山空港、出雲空港など

(2) 道内空港での取り組み

函館空港で次のような周辺整備がとりくまれている。

- ・エアフロントオアシス：緩衝緑地での水路を生かした広場整備
- ・高松ゲートボール場：周辺住民利用のための整備

3 調査内容

(1) 空港利用者へのアンケート

乗客属性が適当な分布をもち、北海道らしさに恵まれている中標津空港線に的を絞り、搭乗、到着、見送り、出迎え、見学客を対象に平成5年6月29日と7月12日の2回実施した。

有効調査票 1100名

(2) 空港従事者へのアンケート

旭川、帯広、女満別、中標津など8空港の従業員など（航空局職員、管理事務所職員、ビル会社職員、航空会社職員、ビルテナント従業員など）を対象に平成4年12月に郵送で実施した。

有効調査票 569名

4 調査結果

(1) 回答者の属性

A Study about Air-Port Park in Hokkaido - Square featuring with Airplanes
by Tsuyoshi TANIYAMA, Hiroaki TAKECHI and Kohji URATA

①利用者アンケート

男性 約65%、女性 約35%

表-1

旅行目的	仕事	観光	帰省私用	送迎	見学	その他
票数	392	295	154	151	32	76

表-2

住所地	地元	左除く道内	道外	その他
票数	361	231	452	56

②従業員アンケート

表-3

空港名	旭川	帯広	女満別	中標津	紋別	利尻	礼文	奥尻
票数	161	106	172	81	20	9	10	10

(2) 結果と分析

①滞在時間

到着客 : 平均30分

出発客 : 平均56分

見送り出迎え客 : 平均31分

チェックインタイムが20分前であることから、出発客は余裕をもって空港に到着している。これに対し、到着客は自家用車などですぐに空港から離れる傾向がある。

②屋外空間利用の希望

表-4

表-5

利用者は屋外で滞在したいとの希望があるが、その具体的内容は「景色を楽しむ」から「散策」程度まであり、空港の存在に「遊び」は求められていない。

他方、従業員は屋外で休憩することは全く見られない。調査時期が冬季であったことによると思われる。

利用者滞り場所	利用者の希望
ビル内	35% 周辺の景色を楽しむ 58%
屋外	46% 周辺を散策する 31%
不明	19% 周辺で遊ぶ 6%
	コスモス畑を見に行く 8%
	その他 8%

表-6

従業員滞り場所

ビル内	87%
周辺散策	1%
周辺でスポーツ	1%
その他	9%

③空港滞り時の希望

表-7

現在の過ごし方は右表のとおりであり、単に待っている人が大部分である。

前述のような短い滞在時間では「待つ」選択肢だけが、現実的であるが、施設面が不十分なことも影響している。

	地元	左除く道内	道外	計
出発時刻を待つ	196	114	259	259
旅の疲れをいやす	13	18	32	63
食事	40	36	60	136
見学	38	23	57	118
その他	18	14	41	73

④望まれる空港のイメージ

8つのイメージを挙げ、利用者の考えを調べた結果は右表の通りであり、利用者からは「緑豊かな」「広大な」「田園・牧歌」的な空港の姿が望まれている。

中標津線ゆえの面もあるが、旅行目的に関わらずこれら3項目を希望していることから、北海道の地方空港に求められているイメージはまさにこうした自然系に焦点が絞られているものと考えられる。

従業員からは、これら自然系3項目に加えて、「空とのふれあい」や「産業交流」などビジネス面へのつながりを重視する意見や、空港そのものとの親しみへの希望が表れている。

⑤整備を希望する施設

具体的な施設名を挙げ、利用者の希望を尋ねたが結果は右のとおりであった。

- ・全体としては物産館、観光情報センター、展望施設、牧場・動物園、水族館を望む人が多かった。
- ・「緑」「広大」「田園」を望んでいる人は、物産館、観光情報センターを希望している。
- ・「近代」を望んでいる人は、観光情報センター、水族館、牧場動物園を希望している。

総体に多様な回答であり、イメージとしては「緑」「広さ」など自然系を求めているものの、具体的な施設としては建物系が多く見られ、ギャップが生じている結果となった。これは、利用者、特に道外からの観光客は北海道に自然系を求めているものの、(これまではそれを)空港には期待していないためと考えられる。

従業員は公園や芝生などの整備を望んでいる。

表-8

(単位:票、MA)

	根室支庁	他道内	道外	不明	合計	従業員
緑豊かな	159	81	185	20	445	215
広大な風景	119	69	169	16	373	121
田園、牧歌的	91	68	121	9	289	69
庭園的	31	17	36	4	88	54
都会的	9	7	10	1	27	40
近代的	28	17	29	1	75	50
空とのふれあい	37	12	29	2	80	105
未来と科学	19	5	16	0	40	41
ビジネス、産業	50	25	23	2	100	82
その他	10	2	11	1	25	46

表-9

(単位:票、MA)

	根室支庁	他道内	道外	不明	合計
《いこい》					
シラカバなどの林	23	25	62	3	113
庭園	65	36	56	2	159
花壇	57	22	55	4	138
芝生ひろば	59	24	50	4	137
噴水ひろば	70	20	37	6	133
水辺(水路、池など)	31	17	29	2	79
散策路	40	32	60	2	134
温泉	32	32	42	3	109
《あそび》					
遊技ひろば	56	20	47	7	130
牧場、動物園	58	25	88	6	177
《スポーツ》					
パークゴルフ	62	30	67	1	160
ゲートボール	7	3	3	0	13
テニスコート	29	10	29	7	75
《カルチャー》					
航空博物館	44	25	41	3	113
プラネタリウム	35	13	42	4	94
図書館	29	17	20	1	67
ミニ映画館	36	18	41	3	98
水族館	60	25	84	7	176
《観光》					
物産館	67	34	106	10	217
観光情報センター	55	44	88	7	194
飛行機の野外展示	27	21	37	2	87
展望施設	71	37	70	6	184
《その他》					
その他	9	2	15	2	28
《サンプル数》	361	231	452	56	1100

⑥展望施設について

地元利用者からは展望施設を望む希望が最も多かった。

周辺には開陽台など自然の展望地点があり、観光客が多く訪れている実態が反映したものと考えられる。

表－１０

⑦温泉について

希望している人の割合

温泉の整備を望む人は、石狩支庁管内の人が多く、女性よりは男性に、観光客よりはビジネス客に望まれて
いる。また、必ずしも自然系（芝生、公園、広場）を同時に望んではいない。

石狩支庁	16%	男	12%	仕事	14%
地元	9%	女	7%	観光	6%
道外	9%			見学	3%

5 整備効果

周辺環境整備を地域振興に結び付けるためには、交流人口の増加を目指すことが有力な手段である。中標津空港をモデルとして、幾つかの施設について整備効果を検討する。

①周辺緑地

従来、空港周辺の緑地は積極的な評価を受けていなかったという実態がある。もともと周辺の自然系と空港との緩衝空間として重要な役割を果たしているが、さらに北海道の自然を印象づける演出することが可能である。その場合緑化の姿が庭園や花壇であっても、緑豊かな北海道を意識した視点での整備が必要である。

②温泉

中標津町は泉源が豊富であるが、町に温泉浴場が少なく隣の別海町まで足を運んでいる。

J R駅での温泉の存在が話題性あるように、「北海道らしさ」の形成に効果ある。しかし、空港利用者だけでは運営困難と試算され、地元住民などの需要を開発することが必要である。

③物産館

観光地では類似施設が多く、空港利用者だけでは収支見通し厳しい。他交通機関の観光客など需要開発が必要と思われる。

④展望施設

北海道らしい風景を印象づける上で大事な要素である。しかし、ターミナルビルからの眺望との関連などを検討し、効率的な整備が必要である。

6 まとめ

ゆとりとうるおいある社会資本整備という観点で、空港に、とりわけ北海道の地方空港に求められる存在意義は次のとおりである。

- ・北海道らしさを表す「緑あふれる」風景が望まれている
- ・その風景としては庭園的公園だけではなく、周辺風景と一体化する公園が望まれている
- ・道外客は空港に観光行動のための施設整備を望んでいる
- ・施設の運営には空港利用者以外の需要開発が必要

以上より、空港ではターミナルビル機能の一層の充実はもとより、従来地域振興という面で積極的な評価を受けていなかった周辺環境整備についても大きな効果が認められた。